

(事前アンケート・5月実施)

平成27年度 磯城野高校におけるOJTの効果的な実践に向けたアンケート調査のお願い

OJT (on-the-job-training) とは、職場での日常業務を通じて行う職員の教育訓練のことで、職場を離れて行う Off-JT とは違い、一人一人の職員の課題に応じた個別的・具体的な取組を進めやすいことから、注目されている人材育成の手法です。学校現場は、教員が子どもと向き合う教育実践の場であると同時に、教員が実践的指導力を向上させる学びの場でもあります。「新たな学びを支える教員」、「学び続ける教員」の確立が求められている今、学校におけるOJTを充実させる必要があります。特に、大量退職と大量採用の時代にあつて、これまで培われてきた教育技術や指導のコツを次世代の教員に引き継いでいくためにも、若手教員の育成に重点を置いたOJTの実践が望まれています。以下のアンケート項目の記入に、ご協力よろしくお願ひします。

5月21日(木)までにマークシートを、教頭先生の前の封筒に入れて下さい。

NO	現在のあなた自身についておたずねします。						
A	職種	1.常勤 実習助手	2.実習助手	3.常勤講師	4.教諭	5.管理職	
B	該当する年齢	1.29歳以下	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代	5.60歳以上	
C	該当する教職経験年数	1.3年未満	2.3年以上 5年未満	3.5年以上 10年未満	4.10年以上 20年未満	5.20年以上	
D	学年での担当	1.担任	2.副担任	3.主任 副主任	4.学年係		
E	性別	1. 女性		2. 男性			
NO	次の各項目について、自己評価してください。 (6.とてもそう思う ← →1.全くそう思わない)	とてもそう 思う	そう思う	少しそう思 う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	全くそう思 わない
1	保護者の思いを受け止め、誠意を持って対応できる。	6	5	4	3	2	1
2	生徒の実態に応じた指導計画を立て、授業を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
3	教員間で生徒の状況や課題等を共通認識し、指導に当たることができる。	6	5	4	3	2	1
4	他の教員の指導から学び、自分の指導を改善できる。	6	5	4	3	2	1
5	教員間の連携を図り、生徒が興味・関心を深められる指導ができる。	6	5	4	3	2	1
6	自分の直面する生活指導・進路指導上の問題に気づき、他の教員に相談し解決できる。	6	5	4	3	2	1
7	部長、主任、校長、教頭に対して、報告・連絡・相談が適切にできる。	6	5	4	3	2	1
8	保護者・地域・外部機関と教育活動等の連絡・協議ができる。	6	5	4	3	2	1
9	地域・外部機関と積極的に関わり、適切な関係を築くことができる。	6	5	4	3	2	1
10	保護者と情報交換等を行い、適切な関係を築くことができる。	6	5	4	3	2	1
11	自校の生活指導・進路指導上の課題に気づき、他の教員に問題提起することができる。	6	5	4	3	2	1
12	提案や立案に際し、事前に他の教員と共通認識を図ったり、助言・支援をしたりすることができる。	6	5	4	3	2	1
13	他の教員に対し、保護者・地域・外部機関との協働に関する必要な情報提供ができる。	6	5	4	3	2	1
14	他の教員の授業を参観し、具体的な助言・支援ができる。	6	5	4	3	2	1

(アンケートは、裏面へ続きます。)

15	授業改善や授業評価についての自校の実態や課題をとらえ、全体に問題提起することができる。	6	5	4	3	2	1
16	自校の生活指導・進路指導の状況について、適時適切に部長、主任等に報告し、対応策を提案できる。	6	5	4	3	2	1
17	保護者や地域のニーズや教員の対応における課題の解決策を部長、主任等と考察することができる。	6	5	4	3	2	1
18	OJTに率先して取り組むとともに、実施状況を部長、主任等に報告し、改善策を提案できる。	6	5	4	3	2	1
19	分掌や教科会議等を通して、学校課題への対応策を作成し、部長、主任等に問題提起を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
20	直面する生活指導・進路指導上の課題の解決に向けて、中心的役割を担うことができる。	6	5	4	3	2	1
21	他の教員の授業を参観し指導上の課題をとらえ、分析・助言・提案ができる。	6	5	4	3	2	1
22	広く模範となる授業を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
23	生活指導・進路指導の指導方針や指導方法の徹底に向け、他の教員への指示や連絡・調整を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
24	保護者・地域・外部機関と連携をとることができる。	6	5	4	3	2	1
25	保護者・地域・外部機関との協働について、他の教員に対し適切な助言ができる。	6	5	4	3	2	1
26	校務について、他の教員に助言・支援できる。	6	5	4	3	2	1
27	他の分掌との調整や、分掌の進行管理をすることができる。	6	5	4	3	2	1
Q1	本校は、教員間で日常的な情報交換は活発に行われている。	6	5	4	3	2	1
Q2	本校は、教員間で教えたり教えられるりする雰囲気がある。	6	5	4	3	2	1
Q3	自分自身、教員間で教える機会、教えられる機会がある。	6	5	4	3	2	1
Q4	本校は、全体的に教員間の授業観察が活発に行われている。	6	5	4	3	2	1
Q5	自分自身、授業観察する機会、される機会がある。	6	5	4	3	2	1
Q6	日常業務の中で、教える教えられる、相談する相談に乗るといった取組を推進させる場合、どのような課題が考えられますか。もつとも該当すると思う項目を選んでください。						
	1. よい取組だと思うので、可能な範囲で協力したい。 2. 忙しく余裕がない。 3. 新たな取組への負担感が大きい。 4. 担当する分掌・委員会がない。 5. 必要性を感じない。 6. 日常的に行うもので、計画的・継続的・意図的に行うものではないと思う。 7. 多少の負担感はあるが、若手教員のためのOJTに協力したい。						
Q7	若手教員育成に向けたOJTの計画的な取組、また、日常的な取組として具体的にどのようなことをすればよいと思いますか。						

ご協力ありがとうございました。

(事後アンケート・11月実施)

平成27年度 磯城野高校におけるOJTの取組 事後アンケート調査のお願い							
平成27年度 磯城野高校でのOJTに協力いただき有り難うございました。本年度の取組は大きく以下の8つでした。							
①OJT研究授業（中堅・ベテランの先生方の授業を若手教員が参観した。）							
②チューター制度（年間を通して、経験豊富な中堅・ベテラン教員に若手教員の日常業務における指導、また、相談係を依頼した。）							
③OJTの日（OJTを意識し、ベテラン・若手が教える・教わる日とし、また、気づきのメモを蓄積・共有した。）							
④保護者・地域住民対応に関するワークショップ（生徒指導や教務的な内容について、想定される例題を準備し、保護者対応等について研究討議・発表を行った。）							
⑤専門学科行事参加研修（農業クラブ県大会に若手教員に参加いただき、生徒の活動を生で見学、また、運営の役割を担っていただいた。）							
⑥人権研修会（人権教育部に依頼し、8月の人権教育研修を、若手育成の内容にシフトしていただいた。）							
⑦OJT研究授業（若手教員が相互に授業を参観、また、中堅・ベテラン教員に若手教員の参観いただいた。）							
⑧HR見学研修（若手教員の要望を受け、先輩教員のLHR見学の機会を設定した。）							
以下のアンケート項目の記入に、ご協力よろしくお願ひします。（Q6・Q7以外は、5月と同様の内容です。）							
11月26日(木)までにマークシートを、教頭先生の前封筒に入れて下さい。							
NO	現在のあなた自身についておたずねします。						
A	職種	1.常勤 実習助手	2.実習助手	3.常勤講師	4.教諭	5.管理職	
B	該当する年齢	1.29歳以下	2.30歳代	3.40歳代	4.50歳代	5.60歳以上	
C	該当する教職経験年数	1.3年未満	2.3年以上 5年未満	3.5年以上 10年未満	4.10年以上 20年未満	5.20年以上	
D	学年での担当	1.担任	2.副担任	3.主任 副主任	4.学年係		
E	性別	1.女性		2.男性			
NO	次の各項目について、自己評価してください。 (6.とてもそう思う ← →1.全くそう思わない)						
		とてもそう 思う	そう思 う	少しそう思 う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	全くそう思 わない
1	保護者の思いを受け止め、誠意を持って対応できる。	6	5	4	3	2	1
2	生徒の実態に応じた指導計画を立て、授業を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
3	教員間で生徒の状況や課題等を共通認識し、指導に当たることができる。	6	5	4	3	2	1
4	他の教員の指導から学び、自分の指導を改善できる。	6	5	4	3	2	1
5	教員間の連携を図り、生徒が興味・関心を深められる指導ができる。	6	5	4	3	2	1
6	自分の直面する生活指導・進路指導上の問題に気づき、他の教員に相談し解決できる。	6	5	4	3	2	1
7	部長、主任、校長、教頭に対して、報告・連絡・相談が適切にできる。	6	5	4	3	2	1
8	保護者・地域・外部機関と教育活動等の連絡・協議ができる。	6	5	4	3	2	1
9	地域・外部機関と積極的に関わり、適切な関係を築くことができる。	6	5	4	3	2	1
10	保護者と情報交換等を行い、適切な関係を築くことができる。	6	5	4	3	2	1
11	自校の生活指導・進路指導上の課題に気づき、他の教員に問題提起することができる。	6	5	4	3	2	1
12	提案や立案に際し、事前に他の教員と共通認識を図ったり、助言・支援をしたりすることができる。	6	5	4	3	2	1
13	他の教員に対し、保護者・地域・外部機関との協働に関する必要な情報提供ができる。	6	5	4	3	2	1
14	他の教員の授業を参観し、具体的な助言・支援ができる。	6	5	4	3	2	1

(アンケートは、裏面へ続きます。)

15	授業改善や授業評価についての自校の実態や課題をとらえ、全体に問題提起することができる。	6	5	4	3	2	1
16	自校の生活指導・進路指導の状況について、適時適切に部長、主任等に報告し、対応策を提案できる。	6	5	4	3	2	1
17	保護者や地域のニーズや教員の対応における課題の解決策を部長、主任等と考察することができる。	6	5	4	3	2	1
18	OJTに率先して取り組むとともに、実施状況を部長、主任等に報告し、改善策を提案できる。	6	5	4	3	2	1
19	分掌や教科会議等を通して、学校課題への対応策を作成し、部長、主任等に問題提起を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
20	直面する生活指導・進路指導上の課題の解決に向けて、中心的役割を担うことができる。	6	5	4	3	2	1
21	他の教員の授業を参観し指導上の課題をとらえ、分析・助言・提案ができる。	6	5	4	3	2	1
22	広く模範となる授業を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
23	生活指導・進路指導の指導方針や指導方法の徹底に向け、他の教員への指示や連絡・調整を行うことができる。	6	5	4	3	2	1
24	保護者・地域・外部機関と連携をとることができる。	6	5	4	3	2	1
25	保護者・地域・外部機関との協働について、他の教員に対し適切な助言ができる。	6	5	4	3	2	1
26	校務について、他の教員に助言・支援できる。	6	5	4	3	2	1
27	他の分掌との調整や、分掌の進行管理をすることができる。	6	5	4	3	2	1
Q1	本校は、教員間で日常的な情報交換は活発に行われている。	6	5	4	3	2	1
Q2	本校は、教員間で教えたり教えられたりする雰囲気がある。	6	5	4	3	2	1
Q3	自分自身、教員間で教える機会、教えられる機会がある。	6	5	4	3	2	1
Q4	本校は、全体的に教員間の授業観察が活発に行われている。	6	5	4	3	2	1
Q5	自分自身、授業観察する機会、される機会がある。	6	5	4	3	2	1
Q6	本年度のOJTの取組の中で、学校で実施するOJTとして有効であると思う取組はどれですか。(3つ以内選択して下さい。)						
	1. OJT研究授業（中堅・ベテランが授業） 2. チューター制度 3. OJTの日 4. 保護者・地域住民対応に関するワークショップ 5. 専門学科行事参加研修 6. 人権研修会 7. OJT研究授業（若手教員が授業） 8. HR見学研修						
Q7	本年度の取組についての感想・課題、また、今後本校や他校でこのような取組を実施する場合のご意見をお聞かせ下さい。						

ご協力ありがとうございました。

(事前・事後アンケート 同一内容)

「授業力」自己診断シート						
この自己診断シートは、個々の教員の授業力の自己評価のために、現在の素直な気持ちを記入してください。 下記のチェック項目について、自己評価を行い、今の自分に最もあてはまると思う番号に、○印を付けて下さい。						
氏名()						
番号	分類	診断項目	当てはまる	たいたい 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない
1	使命感・熱意・感性	授業改善を目指し、研修に進んで取り組んでいる。	4	3	2	1
2		学習のねらいをすべての児童・生徒に達成させようとしている。	4	3	2	1
3		教材研究を行って授業に臨んでいる。	4	3	2	1
4		ものごとに対する幅広い関心をもっている。	4	3	2	1
5		心と体の調子を整えて授業を行っている。	4	3	2	1
6		明るく前向きに児童・生徒に接している。	4	3	2	1
7		学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	4	3	2	1
8	児童・生徒理解	児童・生徒一人一人の学習意欲を把握している。	4	3	2	1
9		児童・生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	4	3	2	1
10		児童・生徒一人一人の変化を把握しようとしている。	4	3	2	1
11		児童・生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	4	3	2	1
12		児童・生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を的確に把握している。	4	3	2	1
13		児童・生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	4	3	2	1
14		児童・生徒の発言や行動を共感的に受け止めている。	4	3	2	1
15	統率力	児童・生徒の反応や変容に気づき、授業を生かしている。	4	3	2	1
16		学習意欲を高めることを意識して言葉かけをしている。	4	3	2	1
17		基本的な学習ルールを定着させている。	4	3	2	1
18		的確な指示を出して集団を動かしている。	4	3	2	1
19		学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	4	3	2	1
20		学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	4	3	2	1
21		児童・生徒に学習の準備についての的確に指示している。	4	3	2	1
22	指導技術	授業の始めに学習のねらいを児童・生徒に明確に示している。	4	3	2	1
23		個に応じた指導を行っている。	4	3	2	1
24		児童・生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	4	3	2	1
25		教材・教具を効果的に活用している。	4	3	2	1
26		発問の工夫をしている。	4	3	2	1
27		児童・生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	4	3	2	1
28		分かりやすい説明をしている。	4	3	2	1
29	教材解釈・教材開発	効果的な板書をしている。	4	3	2	1
30		授業のまとめを工夫している。	4	3	2	1
31		教科等の専門的知識を深めている。	4	3	2	1
32		日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。	4	3	2	1
33		学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
34		児童・生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
35		学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
36	「指導と評価の計画」の作成・改善	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
37		児童・生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
38		時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	4	3	2	1
39		場面や方法を明確にした評価計画を立てている。	4	3	2	1
40		計画を立てる際に児童・生徒の実態を考慮している。	4	3	2	1
41		計画に基づき、児童・生徒の評価を行っている。	4	3	2	1
42		指導計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
43		評価計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
44	振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	4	3	2	1	

授業観察シート

氏名 _____

____月 ____日 (____) ____限 ____年 ____組 _____コース		<input type="checkbox"/> 印 良い(評価できる)と思った項目に○印を付けて下さい。(いくつでも)	
科目名 _____ 授業担当者 _____先生			
項	目	○印	コメント
生徒理解	①生徒とのコミュニケーション		
	②生徒の学習状況把握(机間指導等)		
	③適切な声かけ、助言		
	④生徒の発言への対応		
統率力	⑤授業開始前、授業中の生徒状況把握(着席・机上の準備・身だしなみ確認)		
	⑥ON/OFF切り替え、メリハリのある指導		
	⑦生徒が集中して聞く姿勢をつくるための指導		
	⑧適切な声の大きさ・分かりやすい言葉遣い		
	⑨熱意・意欲の伝わる指導		
指導技術 (授業展開)	⑩「導入」での具体的目標・ねらいの明示		
	⑪「まとめ」での振り返り		
	⑫発問の仕方(生徒の理解・思考を深める発問)		
	⑬説明の仕方		
	⑭板書の仕方(文字の大きさ・内容・色づかい)		
	⑮教科書・プリント・教材の工夫・効果的な活用		
	⑯授業展開における工夫		
その他、良かった点・参考になった点、感想等			

(O J T 研究授業後の研究協議資料)

参観教員から提出された「授業観察シート」のまとめ

授業見学者 9 名・観察シート提出者 7 名

10 月 28 日 (水) 3 限 2 年 4 組 _____ コース 科目名 数学 I 授業担当者 OO 先生			
項目	○数	コメント	
生徒理解	①生徒とのコミュニケーション	5/7	<p>○生徒 1 人 1 人の意見を取り上げており、生徒が意欲を持って発言していた。</p> <p>○机間指導することで、なかなか話合いが進まない生徒にヒントを与えるなど、適切なアドバイスをしていた。</p> <p>○生徒とのコミュニケーションがとても良かった。</p> <p>○生徒とコミュニケーションをとり、自然に興味をひかせるような進め方であった。</p> <p>○測定の考え方と三角比の関連性について、導入時にもっと説明すべきである。</p>
	②生徒の学習状況把握 (机間指導等)	6/7	
	③適切な声かけ、助言	7/7	
	④生徒の発言への対応	5/7	
統率力	⑤授業開始前、授業中の生徒状況把握 (着席・机上の準備・身だしなみ確認)	6/7	<p>○熱意・意欲の伝わる指導で、全体としては非常に良かった。</p> <p>○聞き取りやすい声だった。</p> <p>○適切な声であり、後ろの生徒まで良く聞こえていた。</p> <p>○説明する時に、生徒が自然に静かになるのが、日頃の指導の成果だと感じた。</p> <p>○授業のはじめ・終わりで服装・姿勢を直すように指示できていた。</p> <p>○班分けをし、問題に対する話合いを行う工夫が良かった。</p> <p>○最初の起立で服装を直す指示を行うことは今後も継続してほしい。しかし、もう少し時間をとり、全員が服装を直したことを確認してから、次に進めなければ、改善しないままの生徒がでる可能性がある。</p> <p>○授業のリズム (テンポ) が良くない。リズム・適切なスピードが大切である。</p> <p>○机間指導後、前を注目させる言葉がないまま解説を始めることがあった。(生徒同士での討議が終わっていない班もあった。)</p>
	⑥ON/OFF切り替え、メリハリのある指導	4/7	
	⑦生徒が集中して聞く姿勢をつくるための指導	2/7	
	⑧適切な声の大きさ・分かり易い言葉遣い	7/7	
	⑨熱意・意欲の伝わる指導	5/7	
指導技術 (授業展開)	⑩「導入」での具体的目標・ねらいの明示	4/7	<p>○生徒に考えさせる授業の中で、適切なヒントを出していた。また、机間指導による個別指導を行うことで、答えを導くためのサポートを行う形態が新鮮だった。</p> <p>○クラス生徒の実態や雰囲気即した適切な発問が、授業に集中させることに繋がっていると感じた。</p> <p>○答えやすい数値で次々と発問しており、リズムカルで良かった。生徒の意欲の持続や達成感にも繋がっている。</p> <p>○日常的にはできないが、グループで話合い、その様子が熱心で効果的であったと感じた。</p> <p>○身近なモノと数学の関係がよく分かる内容だった。</p> <p>○グループワークによる生徒同士の教え合いが見られた。</p> <p>○板書の文字の大きさが見やすかった。</p> <p>○道路勾配の例が身近な内容で分かりやすかった。</p> <p>○道路勾配を例にあげ考えさせ、説明しているところは非常に分かりやすかった。普段の授業でもこのような例題をあげることで、興味を引くことが出来ると感じた。</p> <p>○勾配の計算など、身近な事柄で興味付けを行ってから三角比の内容に入っていた。</p> <p>○$\tan A=1/2$ を 道路勾配に直すとは何%? という発問が面白い。</p> <p>○\tanの意味合いがよく分かった。</p> <p>○ふり返りを生徒同士で説明させるとよい。</p> <p>○生徒同士で説明し合う活動をもっと取り入れてほしい。</p> <p>○グループでの発表の機会が少ないと感じた。</p> <p>○板書で小さい文字・赤色文字などが数カ所あった。黒板を見ただけでは判別しづらく、後方の生徒は見えなかったと思う。(OO先生の説明をしっかりと聞いていれば分かるが)</p> <p>○板書が整理し切れていないように感じた。tanが式のどこまでを指すのかや、tanの値とそこから求める勾配との区別などを、板書でもしっかり示すことが出来れば良いと感じた。</p> <p>○板書の工夫が必要。大切なポイントが一目で分かるように。</p> <p>○生徒がノートに書く時のレイアウトを考えて板書すると良い。</p> <p>○板書の角度表示で「40°」と表記すべきところで「40」と書いていた。</p>
	⑪「まとめ」での振り返り	6/7	
	⑫発問の仕方 (生徒の理解・思考を深める発問)	7/7	
	⑬説明の仕方	2/7	
	⑭板書の仕方 (文字の大きさ・内容・色づかい)	2/7	
	⑮教科書・プリント・教材の工夫・効果的な活用	2/7	
	⑯授業展開における工夫	7/7	
授業見学者	その他、良かった点、感想等	<p>○今後、専門学科で学習する内容 (勾配計算) を題材として先取りしており、専門学科の生徒への例題としては非常に良かった。</p> <p>○時間的に三角比の表は無理と思ったが、生徒の興味・関心を上手に引き出すことが出来た授業だった。</p> <p>○最後の振り返りを生徒同士でしないと、アクティブ・ラーニング型授業にはならない。</p> <p>○全体としてはアクティブ・ラーニングを実行している場面もあり、今後、授業改善を進めていけば、更に良い授業が出来る。</p> <p>○専門学科の内容を取り上げる工夫は非常に良かった。したがって、専門学科と測量との関わりに関する説明を導入時に行えば、測量を題材としている意図が生徒たちに伝わる。</p> <p>○道路標識の中の「勾配表示」が間違えていた。もう一步踏み込んで生徒たちが学ぶ専門学科の内容を調べてほしいかった。</p>	

OJT気付きメモ

日々の仕事での「気づき」を蓄積し、
新たな発見を共有しましょう。

- ①自身のアイデア・ひらめき
 - ②周囲の先生方からのアドバイス・言動
 - ③周囲の先生方へのアドバイス
 - ④学校改善に向けた提案
- など、何気ない気づきを記入して下さい。

(本校OJTイメージ図)

